



平成30年11月14日

各 位

会社名 株式会社リニカル

代表者名 代表取締役社長 秦野 和浩

(コード番号：2183 東証第一部)

問合せ先 専務取締役管理本部長 高橋 明宏

(TEL. 06-6150-2582)

## 第2四半期累計期間連結業績予想と実績の差異及び

### 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成30年5月15日に公表いたしました平成31年3月期第2四半期累計期間（平成30年4月1日～平成30年9月30日）の連結業績予想と、本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、平成30年11月14日開催の取締役会において、平成30年5月15日に公表いたしました平成31年3月期通期（平成30年4月1日～平成31年3月31日）の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成31年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異

(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

(単位：百万円)

|                                    | 売上高   | 営業利益  | 経常利益  | 親会社株主に<br>帰属する<br>四半期純利益 | 1株当たり<br>四半期純利益 |
|------------------------------------|-------|-------|-------|--------------------------|-----------------|
| 前回発表予想(A)                          | 6,276 | 884   | 858   | 582                      | 25円61銭          |
| 実績(B)                              | 5,612 | 651   | 753   | 389                      | 17円15銭          |
| 増減額(B-A)                           | △664  | △233  | △105  | △193                     |                 |
| 増減率(%)                             | △10.6 | △26.4 | △12.2 | △33.2                    |                 |
| (ご参考) 前期第2四半期実績<br>(平成30年3月期第2四半期) | 4,319 | 839   | 838   | 537                      | 23円63銭          |

## 2. 平成31年3月期通期の連結業績予想数値の修正

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(単位：百万円)

|                          | 売上高    | 営業利益  | 経常利益  | 親会社株主に<br>帰属する<br>当期純利益 | 1株当たり<br>当期純利益 |
|--------------------------|--------|-------|-------|-------------------------|----------------|
| 前回発表予想(A)                | 13,100 | 2,031 | 1,993 | 1,329                   | 58円48銭         |
| 今回修正予想(B)                | 11,894 | 1,645 | 1,722 | 1,023                   | 45円12銭         |
| 増減額(B-A)                 | △1,206 | △386  | △271  | △306                    |                |
| 増減率(%)                   | △9.2   | △19.0 | △13.6 | △23.0                   |                |
| (ご参考) 前期実績<br>(平成30年3月期) | 9,113  | 1,846 | 1,826 | 1,295                   | 57円02銭         |

## 3. 差異及び修正の理由

当社は、製薬会社の北米を含むグローバル開発ニーズへの対応力の強化等のために、平成30年4月16日(米国東部標準時)にLINICAL USA, INC. (本社：ニューヨーク州)を通じて米国を本拠にCRO事業を営むAccelovance, Inc. (本社：メリーランド州、現Linical Accelovance America, Inc. 以下、「LAA社」)の発行済株式の100%を取得して完全子会社化し、平成31年3月期から連結業績に含めております。

当社では、LAA社の買収後、当社取締役をLAA社の責任者として派遣するなど経営体制の掌握に努めるとともに、上場企業のグループ会社にあふさわしい管理体制の整備として、当社既存の米国部門、欧州部門との重複機能の整理・統廃合、米国内拠点の統廃合の検討、管理部門のマネジャークラスを中心とした余剰人員の整理などLAA社の今後の事業展開を見据えた積極的なポスト・マージャー・インテグレーション(当初計画した買収後の統合効果を最大化するための統合プロセス)を進めております。また、当社グループ全体でLAA社の米国や中国での治験実績を新たな武器として営業活動を推進してきた結果、米国や中国を含めた国際共同治験案件について多くの打診を受けており、LAA社の買収が当社グループの営業面でも効果を発揮し始めています。

しかしながら、このような状況の下、平成31年3月期の業績については、LAA社において、買収後に契約締結直前での発注の見合わせがあったことや複数件の受託プロジェクトの開発中止などが発生するとともに、新規受託が計画を下回り、売上高は予想を大幅に下回る状況となりました。現在は新たな新規受注の深耕や余剰人員の整理などのコスト削減策を進め、大型の新規受注の獲得や余剰人員の整理などによるコスト削減の効果も出始めていますが、人員整理に伴う一時的な追加コストも発生するため、売上高の計画未達を補うには至らず、売上高、利益ともに当初の予想を下回る見込みとなりました。なお、LAA社におけるリストラクチャリングによる費用削減効果により、来期以降のLAA社買収に伴うのれんの償却費を吸収することが可能になると考えております。一方で、当社グループの既存各社においては、現時点では当初の予想の範囲内で業績は推移しております。現状、米国や中国を含めた大型の国際共同治験案件の他、多くの新規案件の打診を受け、期末から来期以降の業績に寄与する案件の営業活動が活発化しており、LAA社の買収によって日本、アジア、米国、欧州で一定規模のグローバル受託体制が整うことによる営業面での効果が今後徐々に発現するものと期待しております。

以上の結果、平成31年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異が発生いたしました。また、LAA社について当初の業績予想の見直しを行った結果、平成31年3月期通期の連結業績予想を修正いたします。

(注) 上記の業績予想は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上